

さくらほっと NEWS

vol.67
令和7年夏号

名古屋市立大学病院 さくらほっとNEWS

vol.67 令和7年夏号

発行：名古屋市立大学病院 発行責任者：院外広報誌編集会議（年4回発行）
〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 TEL 052-858-7116（経営課）

患者情報ライブラリーセミナーを開催しました

患者情報ライブラリーは病棟・中央診療棟B1階、ATMとコンビニの間にあります。患者さんや家族および市民の皆様に向けて、病気や健康についての情報を提供するとともに、学習や情報交換の場を提供しています。病気や健康についての参考図書や各種パンフレットを整備しており、担当の看護職員が利用方法のご案内や各種ご相談に対応しています。

患者情報ライブラリーでは2ヶ月に1回ほどのペースで「患者情報ライブラリーセミナー」を開催しています。セミナーでは当院の医師が患者さんや市民の皆様に向けて、病気の治療や病気の理解を深めるお話、また疾病予防・健康増進に役立つ情報をわかりやすくお伝えしています。

今年度第1回のセミナーは、内分泌・糖尿病内科の医師による「1から知ろう、ダイアベティス（糖尿病）」をテーマに開催しました。「ダイアベティス」とは、糖尿病という言葉がもたらす誤解を避けるため、近年提案された新たな呼称です。今回は、当院で昭和の時代から続いている「糖尿病教室」と「ライブラリーセミナー」との共同企画として実施しました。医師による講義に加えて、医学部学生による合併症の説明、栄養士による食事のアドバイスなど、多角的にダイアベティス（糖尿病）について理解が深まる内容でした。セミナーでは参加者から質問もあり、アットホームな雰囲気の中で終了しました。セミナーに参加できなかった方には、過去2009年度からのセミナーを収録したDVDをライブラリーで視聴して頂けますので、ぜひご利用ください。

患者情報ライブラリーセミナーのご案内は、桜山の地下鉄通路などにも掲示しています。予約は不要で、どなたでもご参加いただけます。皆様のご参加をお待ちしています!!



内分泌・糖尿病内科医師による講義



医学部学生による合併症についての説明

R7年度 患者情報ライブラリーセミナー 年間スケジュール

4月24日(木) 14時～

「1から知ろう、ダイアベティス(糖尿病)」
内分泌・糖尿病内科：伊藤隆彦医師

6月6日(金) 14時～

「網膜剥離について」
眼科：加藤亜紀医師

8月7日(木) 14時～

「大腸がんの今とこれから
～知ることが最大の予防～」
消化器・一般外科：山川雄士医師

10月 いたみセンター
「帯状疱疹後神経痛」
麻酔科：加藤利奈医師

12月 小児科

2月 膠原病内科
「知っておきたい 関節リウマチ」
膠原病内科：為近真也医師

さくら基金へのご寄附ありがとうございます

名古屋市立大学病院では、「笑顔と感動」への架け橋として役立てることを目的として「さくら基金」を設置しております。

皆様から寄せられた寄附金は、患者さんはもちろんのこと、職員等の当院に携わる方の視点も取り入れながら医療の充実を図るために活用させていただきます。

何卒、当さくら基金設置の趣旨をご理解いただき、ご寄附のお力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。

令和6年度は、屋上庭園や病院周辺の植栽管理、給食用食器の更新、ホスピタルピアノの調律等に活用させていただきました。また、購入品として、病棟のベッドや車椅子、ナースカート、初期研修医のスクラブ等に活用させていただきました。

皆様のご理解・ご協力に厚く感謝申し上げます。

さくら基金についてのお問い合わせ先

経営課経営係 さくら基金担当 Tel：052-858-7529(直通)
受付時間：月曜日から金曜日の午前9時から午後5時



車椅子



初期研修医のスクラブ



病棟のベッド



ナースカート



屋上庭園の植栽管理



HCUスタッフ

- HCUセンターのご案内 2 患者情報ライブラリーセミナーを開催しました... 4
名市大病院のチカラ Vol.35 3 さくら基金へのご寄附ありがとうございます... 4

救急災害医療センター開棟まであと1年!

令和8年6月1日の救急災害医療センターの開棟まであと1年となりました。これを機に、開棟予定日までの日数を表示するカウントダウンボード（ディスプレイ型）と垂れ幕3本を外来診療棟アトリウムに設置しています。センターの工事映像も定期的にディスプレイで流れるようになっていきますので、ぜひご注目ください。今後も様々な取り組みにより、開棟までの機運盛り上げを図るとともに、開棟に向けた準備を加速化してまいります。引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

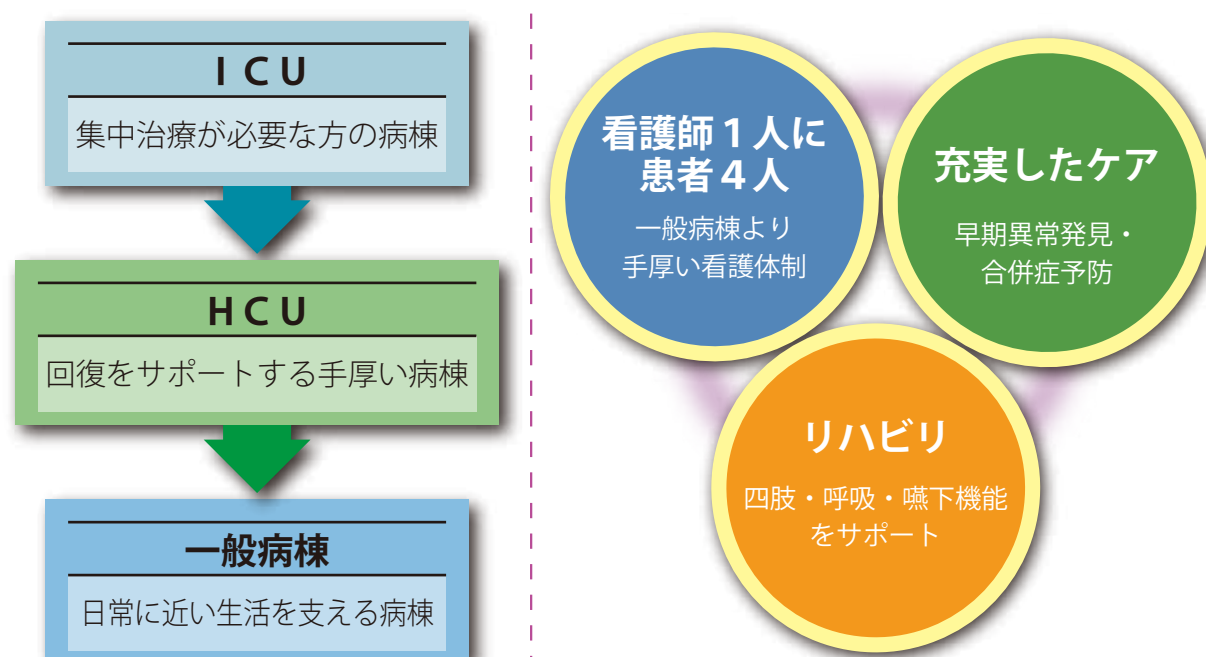


開棟まで
あと335日
※R7.7.1時点

HCUセンターのご案内

【HCU】はHigh Care Unitの略で、日本語では高度治療室や準集中治療管理室と訳されます。ICU(集中治療室)ほどの厳密な集中治療は必要ないものの、一般病棟より重症度が高い患者さんが療養される病床です。令和6年度は900名の患者さんが入室されました。約9割が術後の患者さんで外科、心臓血管外科、脳神経外科、耳鼻いんこう科と多くの科の患者さんが入室されています。

一般病棟より看護師が多く、ケアやリハビリが充実しているのが特徴です。



【みなさまへ】

HCUには術後だけでなく、ICUや救急病棟で長期間治療を受けた患者さんも入室されます。こうした患者さんが安心して日常生活に戻れるよう、痛みや体調に応じて一步步リハビリを進めていきます。手術前に行った肺や心臓検査の病歴も参考にして、無理のない安全なプランで支援します。

手術翌日には、看護師が付き添いながらベッドサイドに立ったり、病棟内を歩いたり、段階的に身体を動かします。また、体のリハビリに加えて、呼吸機能や食事のリハビリも行います。療養中につらいお気持ちになることもあるかと思いますが、看護師が寄り添ってお話を伺います。必要に応じて臨床心理士と連携し、心のサポートも行っています。

このように、私たちは多職種で協力しながら患者さんの回復を支えています。どうぞ安心してお過ごしください。

名市大病院のチカラ Vol.35

乳 腺 外 科

遺伝性乳がん患者さんに対する
予防的乳房切除術などにも積極的に取り組んでいます

名古屋市立大学外科乳腺グループには40年ほどの歴史がありますが、当院に乳腺外科が新設されたのは、2016年で比較的新しい診療科のひとつです。

同年には「乳がん診療・乳房再建センター」も設立しました。乳がんの手術選択肢に「乳房全切除術+乳房再建術」が加わり、形成外科医との密接な連携が不可欠となっています。また、精神的なサポートは乳がん診療において欠かせない領域となっているため、当院のサイコオネコロジスト(心のケアを専門とする医師)と密接な連携をとって、「乳がん診療・乳房再建センター」を運営しています。

2018年より、遺伝性乳がんの患者さんに対して予防的乳房切除術(リスク低減乳房切除術)が保険適応になりました。この手術ができる施設は、ある一定の資格が必要ですが、当科では予防的乳房切除術を行う資格を取得しています。最近の研究では予防的乳房切除術(+乳房再建術)を行うことで予後の改善も示されていますので、今後

ますますニーズが高くなることが予想されます。

乳がん治療は手術と薬物療法の組み合わせから成り立っています。そのため様々な薬剤の開発が世界中で行われています。薬剤開発にかかわる治験に多く参加していることも当科の特徴です。治験に参加することで、患者さんに最先端の医療を提供できるだけでなく、私たち乳腺外科医も最先端の医療を学ぶことができます。

患者さんが少しでも前向きに治療をして頂けるように、当科では「質の高い、こころと体に優しい医療」を心がけています。



(前列右から) 鰐淵准教授、浅野医局長、遠山教授、と医局員のみなさん

高精度放射線治療センター

高精度放射線治療センターでは、放射線科治療医師、放射線技師、医学物理士、看護師がチームを組み高精度な放射線治療を患者さんに提供しています。強度変調放射線治療(IMRT)、定位放射線治療(SRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)を中心とした高精度放射線治療技術により、がん患者さんへの副作用を減らしつつ、最大の治療効果が得られるようチームで取り組んでいます。

放射線治療は、頭頸部がん、肺がん、食道がん、乳がん、前立腺がん、子宮頸がんなど全身の悪性腫瘍を対象としており、がん患者さんの治療選択肢の一つとして古くから行われています。当院では3台の最新の高精度放射線治療機を用いてこれらに立ち向かっています。小線源治療機も有しており、最近、画像誘導技術が導入され、より高精度に治療が実施可能となりました。また、昨年

度はルタテラ治療という最新の放射線内用療法についても積極的に取り入れました。当センターではこれらの治療を西部医療センター、東部医療センターとも連携して実施しており、当大学病院群は放射線治療の中でも多くの疾患に対して幅広い治療方法を選択できる体制をとっています。

我々はこれからもチームとして多くの患者さんに安全で高度な治療を提供できるよう、これからも精進してまいります。



高精度放射線治療センタースタッフ(中央 樋渡センター長)